



2011年10月4日(火)
株式会社ボーネルンド

～ 子どもの遊びと成長に関する母親の意識調査 ～

子どもの成長に重要なのは「思いやり」、20代の母親で顕著 震災後の外遊びの変化を調査、福島を中心に東北・関東に広がる放射能の影響

子どもの健全な成長に寄与することを目的に教育玩具の輸入・開発・販売を行う株式会社ボーネルンド(本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：中西弘子)では、9月上旬に0歳から6歳のお子様を末子に持つ全国の母親1000名を対象に、「子どもの遊びと成長に関する母親の意識」に関するインターネット調査を実施いたしました。

今回の調査では、今年3月11日に発生した東日本大震災を経た、子どもを持つ母親の遊びや育児に対する意識をとらえるために、「一年前と現在を比べての外遊びの時間の変化」「子どもの成長に重要と思う項目」「勉強・遊びが子どもの成長にもたらす有用性」「外で遊ぶ時間が減少することへの懸念」などに関して調査しました。

【 調査概要 】

調査方法：インターネット調査
調査地域：全国
調査対象：0歳から6歳のお子様を末子に持つ全国の20代から40代の母親
調査地域：全国5エリア【北海道、東北、関東甲信越、北陸東海近畿、中国四国九州(沖縄含む)】
有効回答数：合計1000サンプル(1エリアあたり約200サンプル)
調査時期：2011年9月上旬

【 調査結果のポイント 】

- 震災後の外遊び時間の変化
 - 昨年と比べて外遊びを減らした母親は全国で14.5%、福島県では75%に上る
 - 外遊びを減らした母親のうち、東北や関東甲信越地域では過半数が放射能の影響への心配から外遊びの時間を減らしており、特に福島県では83.3%が放射能の影響と回答
 - 外遊びの種類別では、砂場での遊びを減らした母親が過半数に達する
- 子どもの成長と遊びに関する意識
 - 子どもの成長に重要と考える項目は、①思いやり②コミュニケーション力③話す力・聞く力④好奇心⑤体力・運動能力で、特に20代の母親の「思いやり」への重要度が非常に高い
 - 外遊びの時間が減少することで子どもの成長に不安を感じる母親は56.7%と、感じない母親の割合(16.1%)を大きく上回る

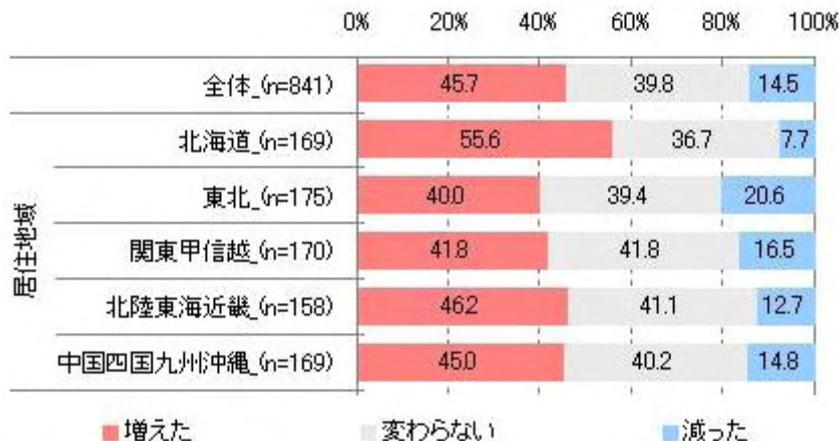
【 調査結果 】

震災後の外遊び時間の変化

～外遊びの時間、東北から関東エリアで震災の影響濃く～
 ～外遊びを減らした親、福島県では75%に～

Q. 一年前と現在を比較して、一番下のお子様が1日の中で外遊びをする時間に変化はありましたか

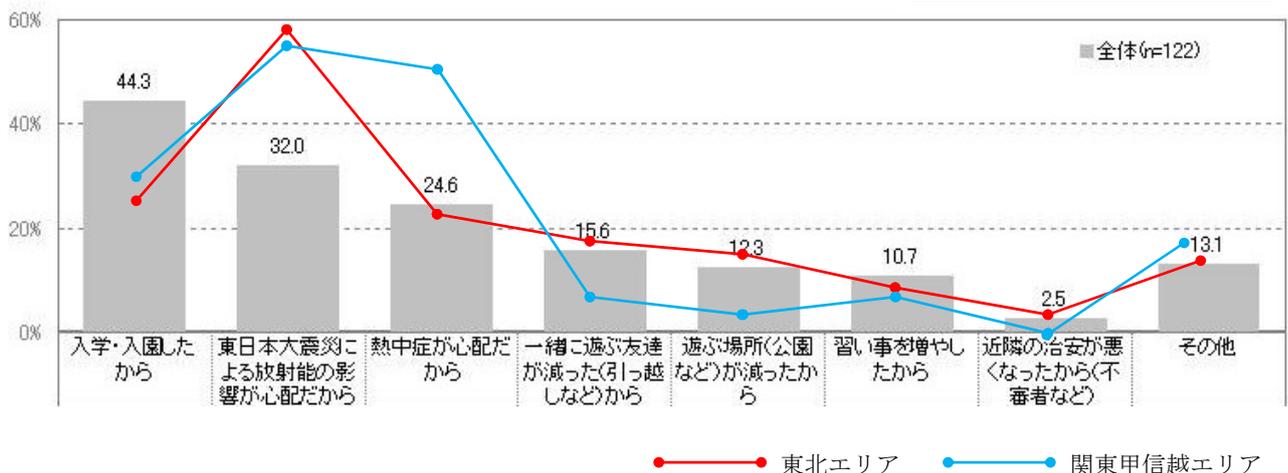
※一番下のお子様が0歳以外の人ベース n=841



一年前と比較して 14.5%の母親が外遊びをする時間が減ったと回答しました。東北 (20.6%) や関東甲信越 (16.5%) で平均より高く、特に福島県に限定すると 75.0%の母親が外遊びの時間が「減った」と回答しました。

Q. 次の項目のうち、あなたが一番下のお子様の外遊びの時間が減ったと思う理由をあげてください (複数回答)

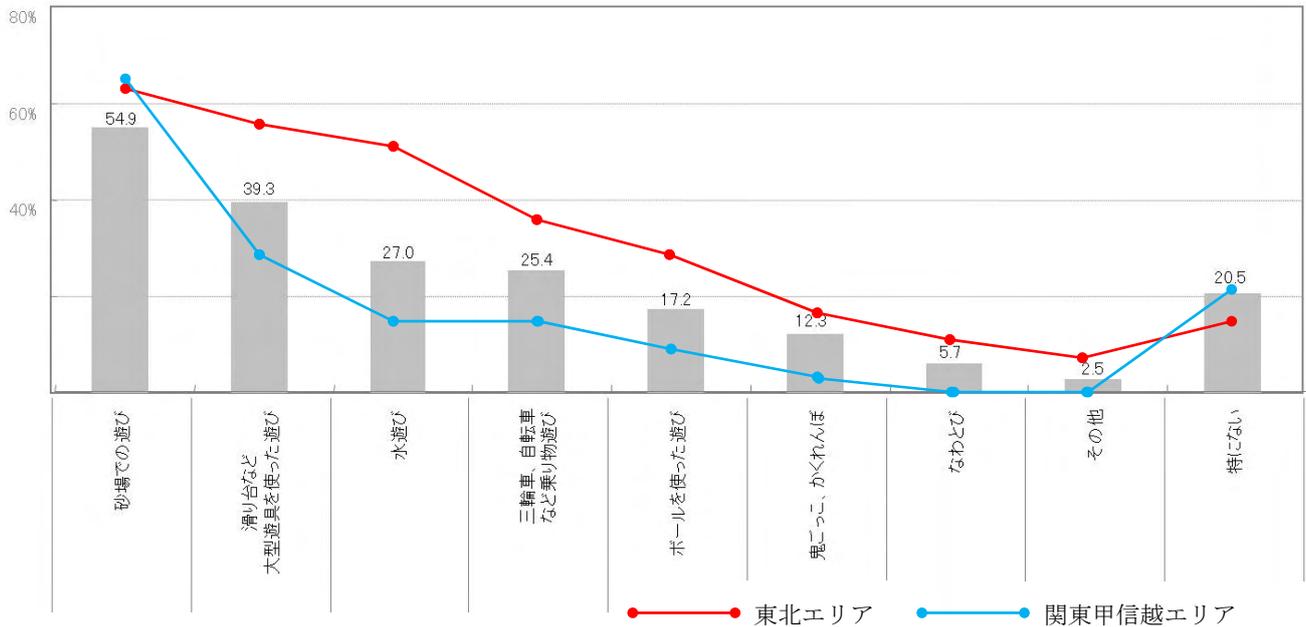
※外遊び時間減少者ベース n=122



一年前と比べて外遊びが減ったと回答した母親 122 名に外遊びの時間が減った理由を尋ねたところ、「入学・入園」というライフステージの変化によるものが一番多く、続いて「東日本大震災による放射能の影響」が挙げられました。地域別に見ると、東北・関東甲信越地域では、「放射能の影響が心配」(東北: 58.3%、関東甲信越: 57.1%) が「入学・入園」(東北: 25.0%、関東甲信越: 32.1%) を大きく上回りました。特に福島では 83.3%の母親が「放射能の影響が心配」を挙げており、色濃い影響がうかがえます。

Q. あなたが一番下のお子様の外遊びの時間が顕著に減ったと感じる遊びはありますか(複数回答)

※外遊び時間減少者ベース n=122

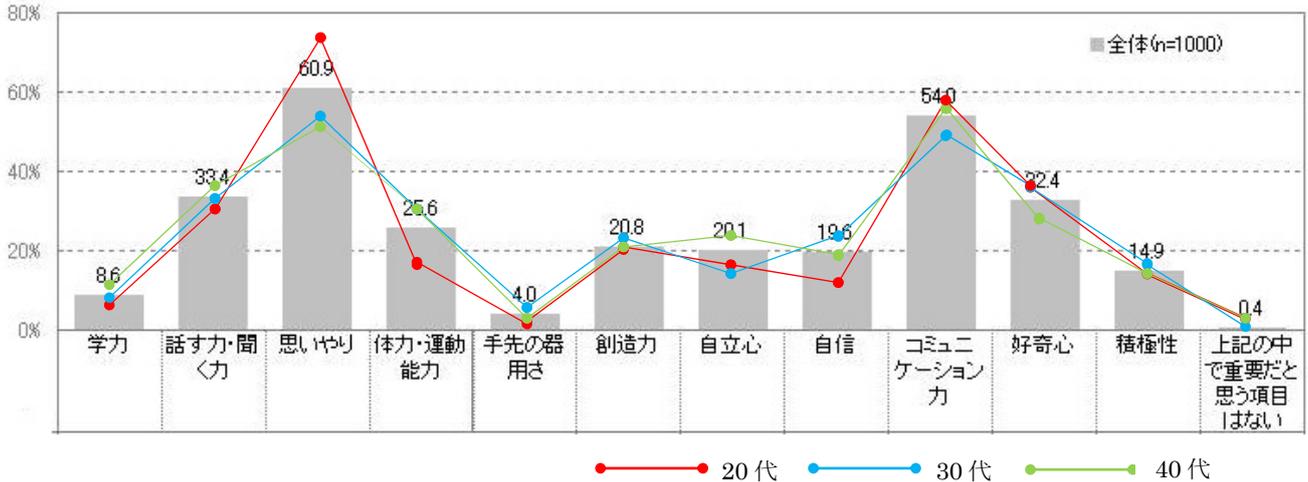


時間が減った外遊びの種類を尋ねたところ、「砂場での遊び」が過半数を占めました。特に東北（63.9%）、関東甲信越（64.3%）で高く、東北から関東地方にかけて、砂場の放射能汚染を心配する母親が多いことが分かりました。東北地方では、「滑り台など大型遊具」「水遊び」「乗り物遊び」など、すべての項目で平均を上回っており、震災後、東北地方を中心に遊びの環境が失われている傾向がうかがえます。

子どもの成長と遊びに関する意識

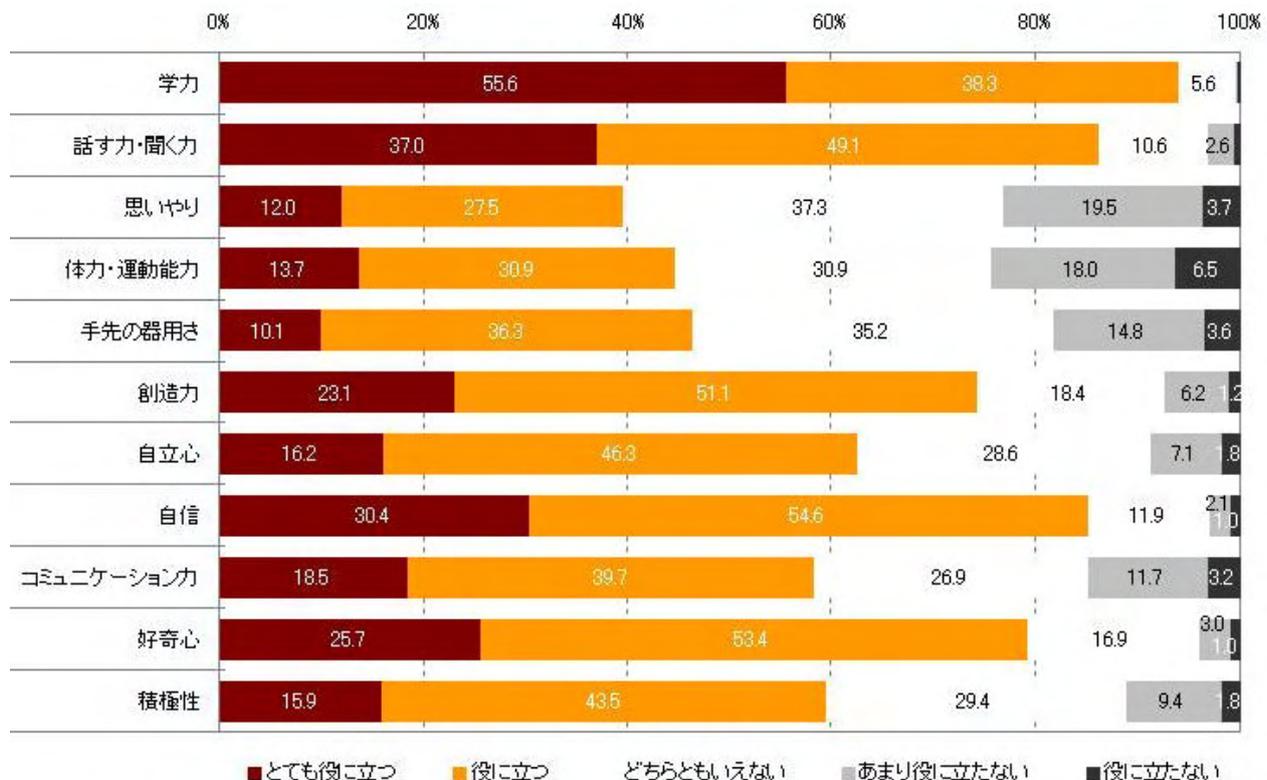
～子どもの成長に重要なのは「思いやり」、20代の母親に顕著～
 ～外遊び時間が減少することで、子どもの成長に不安を感じる母親が過半数～

Q. 次の項目について、今後、一番下のお子様の成長にとってあなたが重要だと思う項目を3つまで挙げてください

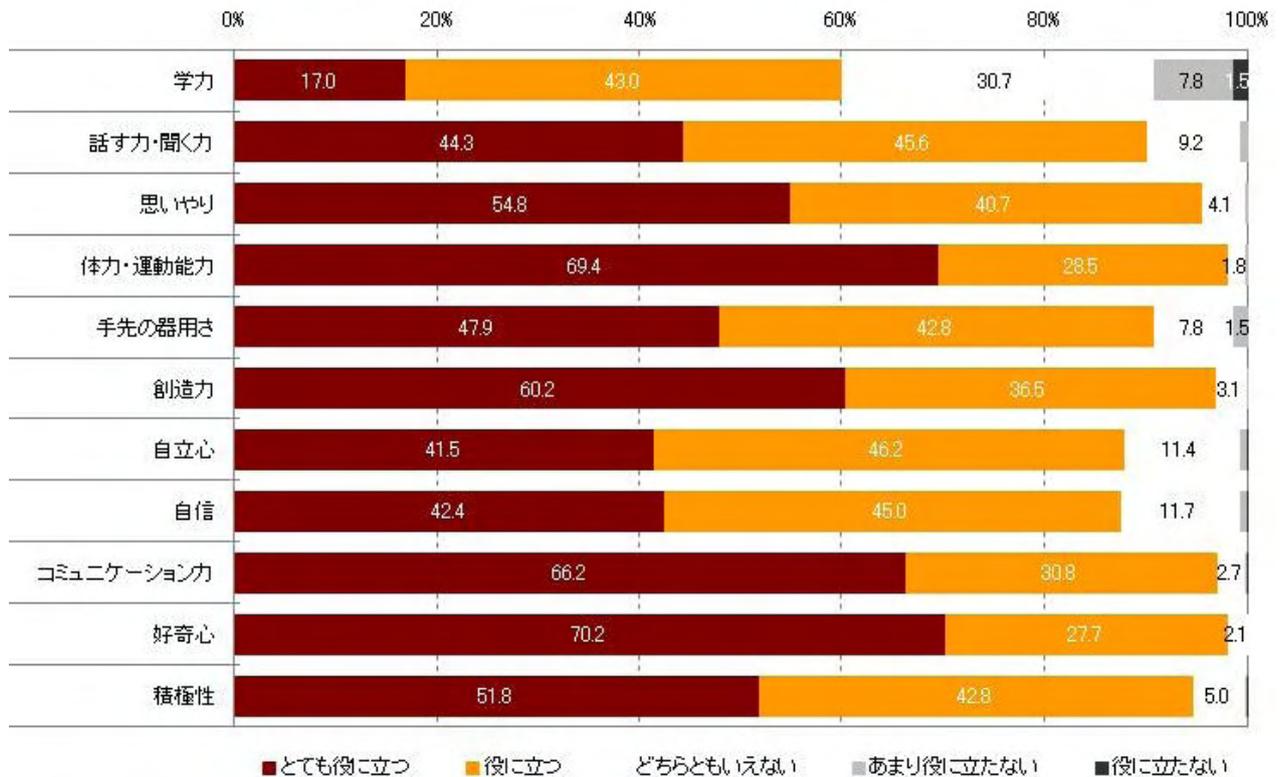


子どもの成長にとって重要だと思う項目については、1位「思いやり」(60.9%)、2位「コミュニケーション力」(54.0%)、「話す力・聞く力」(33.4%)の順でした。1位の「思いやり」については、20代の母親で73.7%と、30代(55.0%)、40代(54.1%)に比べて顕著な差が見られました。反対に、体力・運動能力(25.6%)については、30代・40代(ともに29.0%)に比べ、20代では18.7%と、若い母親ほど心の成長に重点を置き、体力・運動能力はさほど重視していない傾向にあることがわかりました。

Q. あなたは今後、一番下のお子様について、以下の項目の力を育てるために、どれくらい勉強が役に立つと考えますか



Q. あなたは今後、一番下のお子様について、以下の項目の力を育てるために、どれくらい遊ぶことが役に立つと考えますか



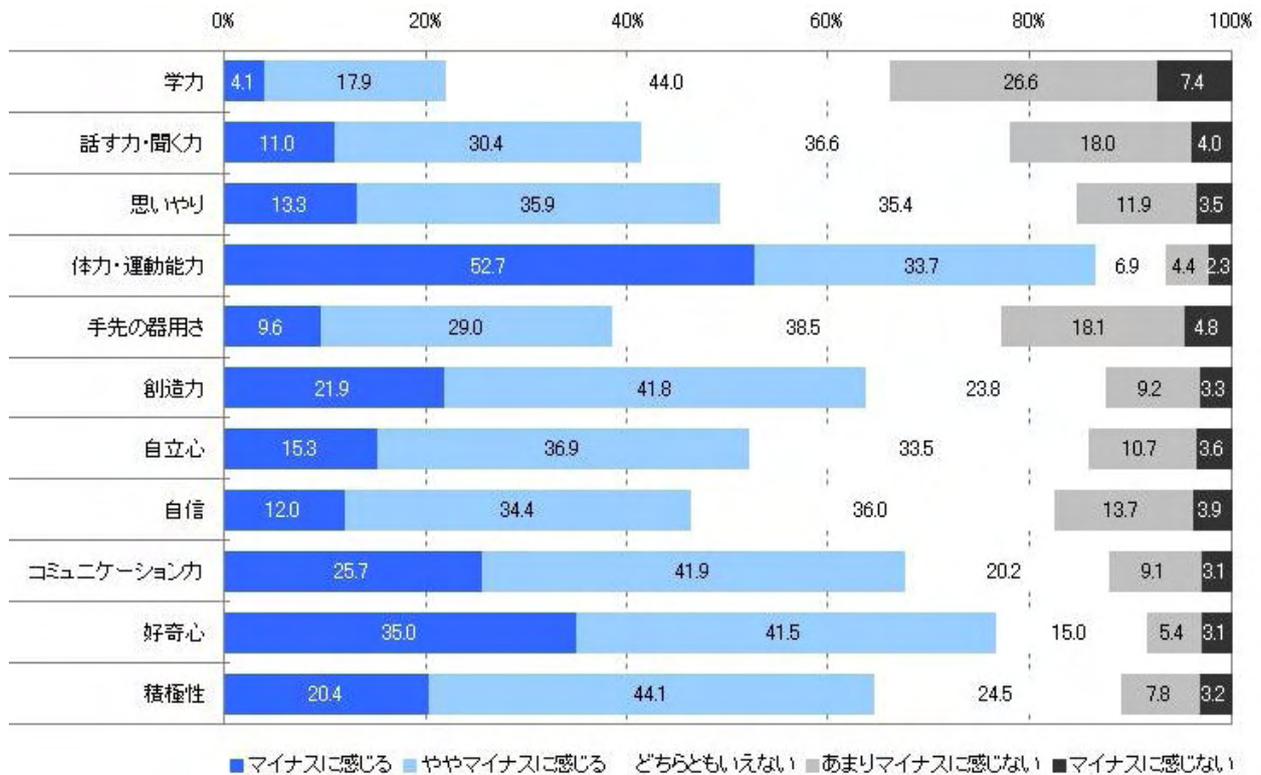
勉強や遊びが子どもの成長にどのくらい役に立つかを尋ねたところ、勉強が役に立つと考える項目は1位「学力」(93.9%)、2位「話す力・聞く力」(86.1%)、3位「自信」(85.0%)でした。遊びが役に立つと考える項目は、1位に「体力・運動能力」「好奇心」(97.9%)が並び、次いで「コミュニケーション力」(97.0%)、「創造力」(96.7%)の順でした。「学力」以外のすべての項目で、遊ぶことが「役に立つ」という回答が87%を超えており、多くの母親が子どもの成長に遊びが欠かせない要素であると認識していることがうかがえます。

Q. あなたは一番下のお子様が、外で遊ぶ時間が減ることで、そのお子様の成長について不安に感じるがありますか。



外遊びの時間が減ることについて、「不安を感じる」と回答した母親の割合は56.7%に上り、「不安に感じない」(16.1%)を大きく上回りました。

Q. あなたは、一番下のお子様が外で遊ぶ時間が減ることで、以下の項目についてどれくらいマイナスの影響があると考えますか。



外遊びの時間が減ることでマイナスの影響を懸念する項目については、1位「体力・運動能力」(86.4%)、2位「好奇心」(76.5%) 3位「コミュニケーション力」(67.6%) となりました。

今回の結果からは、東日本大震災の影響で、福島県を中心に東北から関東地方にかけて、子どもの遊びに変化が生じている傾向がうかがえました。また、子どもの成長に遊びが重要であるとの母親の認識は高く、外遊びの時間が減ることを不安に感じる母親も多くいることがわかりました。十分に体を動かして遊ぶことができる環境を保障していくことは、子どもの成長に欠かせない要素であり、当社でも引き続き、子どもたちの遊びの機会を提供する取り組みを進めてまいります。

【ボーネルンドについて】

ボーネルンドは、“あそびの道具と環境”を提供することを通じて子どもの健全な成長に寄与するため、1981年に設立。一般家庭へ向け、子どもの成長に必要な生活道具としての“あそび道具”を提案、全国約82所で直営店舗を運営しています。また、同時に幼稚園や保育園、公園などに高品質な大型遊具や教育道具の提供を含めたあそび環境の開発を行っており、現在までに手掛けた実績は国内約3万ヵ所まで拡大しています。

≪報道関係の方のお問い合わせ先≫	
株式会社ボーネルンド 広報室 担 当：村上 T E L：03-5785-0860 / 080-5901-3591 E-mail：y-murakami@bornelund.co.jp	株式会社プラップジャパン 担 当：古澤、山口 T E L：03-3486-6868 E-mail：bornelund@ml.prap.co.jp